

2. 地区の現況とまちづくりの課題

2-1 地区の現況

(1) 位置・地形・自然・歴史

- ・ 市の北部にあって、太平洋の海岸線から標高820mの猫鳴山まで、海山の自然に恵まれ、仁井田川等の河川が地域を潤している。
- ・ 海岸線には広い砂浜（海水浴場）や防風林、ヤシの木、磯場など、内陸ではのどかな田園風景や、逢瀬の滝（男滝・女滝）、千軒平溜池などの自然・景観資源に恵まれている。
- ・ 昭和30年に旧四ツ倉町、旧大浦村、旧大野村が合併して四倉町となり、昭和41年の14市町村対等合併によりいわき市四倉町となった。

(2) 人口・世帯数・住宅

- ・ 人口は、全市平均を大きく上回る勢いで減少を続けている。全市に占める人口シェアは、平成19年には4.5%まで低下した。
- ・ 高齢化が急速に進み、若年層の比率が少なく、65歳以上の方の割合が3割近くに達している。
- ・ 四倉地区を構成している、旧四ツ倉町、旧大浦村、旧大野村の3地区のうち、旧四ツ倉、大野地区で人口が大きく減少している。
- ・ 1世帯あたり人員の縮小により世帯数は増加を維持している。1世帯平均人員は3.0人で全市平均よりも大きい。
- ・ 持ち家率は約8割で、市内旧5市地区より高く、住宅の広さにも恵まれている。

(3) 産業

- ・ 就業者のうち自営業者の割合が市内旧5市地区より高い。
- ・ 製造業の就業者数が最大の2割を占め、以下、卸・小売業、サービス業の順である。全市平均の構成に対して、鉱業と農業、漁業の比重が比較的高い。
- ・ 農家数は減少を続けており、その約1/4は自給的農家で、販売農家のうち8割は第二種兼業農家である。
- ・ 経営耕地面積は全市の11.8%を占め、ほ場整備が進み、経営規模の大きい農家の比重が市内でも高い地区である。経営耕地面積のうち「田」が87.4%を占め、作付面積も9割以上が稲であり、米づくりが農業の中心であるが、露地野菜や花卉を収益の柱とする農家もあり、転作も含めトマト、マツタケ、ネギ、イチジク等が地場産品となっている。
- ・ 森林は整備が進められているが、多くが個人などの所有で、林業は収益性の低下や高齢化・後継者不足等により衰退し、荒廃している部分も見られる。
- ・ 漁業の経営体数、就業者数も減少傾向で兼業が多く、就業者は高齢化が著しい。曳網漁、籠漁などが特徴で、ホッキ貝等が特産物であるが、200海里体制後、鮭鱒漁業の縮小や水産資源の枯渇等により漁獲高は大きく減少している。
- ・ 工業の事業所数、従業者数は減少傾向で、製造品出荷額も変動しつつ減少しているが、

いわき四倉中核工業団地が造成され、今後の市北部の工業拠点としての成長が期待される。

- ・ 商業では、卸売業の比重は小さく、小売業も商店数は減少している。郊外型大型店の立地は少ないが、購買力の地区外流出や後継者不足等により、商店街の衰退が進んでいる。
- ・ 玉山、白岩地区に温泉・鉱泉旅館があるほか、海山の自然資源、歴史文化資源は豊富だが、それらの観光的活用が十分になされておらず、案内やＰＲも不十分である。

（４）土地利用

- ・ 山林の比重が高いが、田と畑を合わせた面積の割合が市内では最も高く、農業的土地利用の色彩が濃い地区である。内陸の平地部は、ほ場整備の進んだ農地の中に集落が点在し、一部ではトマト栽培等の特色ある利用が見られる。
- ・ 豊かな緑の環境を提供する里山、山林は、管理が十分でなく荒廃が進み、逢瀬の滝（男滝・女滝）や千軒平等の景勝ポイントへのアクセスもしにくい。
- ・ ＪＲ四ツ倉駅から四倉港の間を中心に陸前浜街道の宿場町の歴史を持つ市街地が形成されているが、空き地や空き店舗、駐車場としての利用なども目立つ。また、ＪＲ四ツ倉駅西側に広大な未利用地（旧住友大阪セメント跡地）があり、有効な活用が望まれている。
- ・ 漁港区域にも未利用の土地や老朽化した建物等がある。
- ・ 広大な砂浜や海岸線は、海水浴場やイベント会場として利用されるが、砂の浸食や堆積、施設環境等において魅力に欠ける面もある。
- ・ 旧四ツ倉町の市街地以外の農地や山林のほとんどは、市街化調整区域に指定され、都市的な土地利用、開発利用が制限されている。
- ・ いわき四倉中核工業団地は、第一期分の造成が終わり、工場の立地が始まっている。

（５）道路・交通

- ・ 一般国道６号が広域的幹線として機能し、また、常磐自動車道いわき四倉ＩＣがある。
- ・ 主要地方道小野四倉線、いわき浪江線、一般県道豊間四倉線等が一般国道６号に接続し、これを市道等が補完して地区内の道路ネットワークを構成している。
- ・ 都市計画道路については、計画的な整備を行っているが、長期末着手の区間も多く残っている。
- ・ 市街地では、ＪＲ常磐線の東西をつなぐ道路機能が不足しているほか、生活道路では狭隘な区間があるなど安全・安心の通行環境が確保されていないところがある。
- ・ ＪＲ常磐線はＪＲ四ツ倉駅以南が複線化されているが、特急列車の停車は１往復で普通列車本数も少なく、乗車人員は年々減少している。
- ・ 一般国道６号にはバス路線があるが、主要地方道小野四倉線のバス路線は利用者減少により廃止され、学生や高齢者の交通手段に支障をきたしている。

（６）公園・緑地・その他都市施設

- ・ 都市計画公園は、近隣公園が１カ所（館下公園）、街区公園が１カ所（梅ヶ丘公園）のみであるが、海岸砂浜や寺社境内等を含め市民の憩いの場は点在している。

- ・ 海岸部には防風林の松林などの緑が景観要素となっているほか、平地を取り巻く里山や仁井田川の河川空間、浜街道の黒松等が、生活の場にうるおいを与えている。
- ・ 公共下水道は、市街化区域が全体計画区域に含まれ、一部で整備が進められている。

(7) その他都市環境

- ・ 市街地の標高が低く、ポンプによる排水対策が行われているが、高潮、大雨、津波時の浸水等の災害に対する不安が残されている。
- ・ 生活排水等による河川水質の汚染が目立ち、市民組織による浄化活動も行われている。
- ・ 山間部の道路沿いや河川敷等でのごみの不法投棄があるほか、海岸部の砂浜やキャンプ場等でもごみの投棄が見られる。
- ・ 八莖鉱山などに関する産業遺産があるほか、旧四倉銀行の建物が国の登録有形文化財に登録されている。そのほか、古墳や寺社など名所旧跡が多く分布する。
- ・ 漁港では、地域ストックである「四倉ふれあい物産館」を利用した、道の駅「よつくら港」の整備が進んでいる。
- ・ 市民のまちづくり組織として「四倉ふれあい市民会議」が活動している。凧揚げ大会をはじめ各種イベントが盛んである。



四倉漁港



優良な田園地区



四倉地区の商店街

2-2 まちづくりの課題

(1) 地域の糧となる複合的な産業おこし

★いわき四倉中核工業団地立地企業による活力の地元への引き込み

いわき四倉中核工業団地の整備は、四倉地区の経済を再生させる大きなチャンスであり、立地する企業と地元市民や事業者との交流等の促進により、産業の活性化を図ることが重要である。

★まちなかの賑わいづくり

特に旧四倉地区商店街など地区の中心部で、商業をはじめとする複合的な産業を内発的に発展させ、人の吸引力を復活し、まちなかの賑わいを取り戻すことが必要である。

★農・漁業の経営安定化と特産品振興

農業・漁業も、これまでの基盤整備の成果を活かし、人材の確保などにより経営安定化を図り、工業との連携なども含め付加価値の高い産物を産み出し続け、地区経済発展の一翼を形成することが重要である。

(2) 地域資源や環境の活用による活性化

★豊かな自然・文化資源の観光的活用と景観整備

美しい海岸や山林、仁井田川や温泉などの自然環境、点在する歴史・文化遺産、産業遺産などを地区の資源と捉え、景観の保全や整備にも努めながら、観光をはじめ様々な活用の方策を検討・実践する必要がある。

★恵まれた居住環境による定住人口の呼び込み

人口減少による活力低下を防ぐため、ゆとりある住宅地など恵まれた居住環境をアピールし、新たな定住人口の呼び込みなど、人を増やす努力が必要である。

(3) 環境保全と調和した土地の有効利用

★調和ある活性化のための土地利用規制・誘導方法の検討

自然や農地等の保全と、商工業や都市活動の発展の調和を目指し、土地を有効利用して活力を産むための土地利用規制・誘導が必要である。

★市街地の土地の有効活用

旧四ツ倉町の市街地内や漁港などでも、大規模遊休地をはじめ未活用の土地が多いため、それらの有効活用により活力や賑わいを生み出す方策を見出す必要がある。

★森林整備の推進と環境保持

市街地や農業集落の背後にひろがる里山やそれを取り巻く広大な山林などは、適切な整備を続けることで、長期的な環境保持、森林機能の増進に努めることが必要である。

(4) 地域の動脈となる道路・交通機能の充実

★幹線道路網の拡充と生活道路の整備

国道、県道、市道、いわき四倉中核工業団地アクセス道路など、地域の骨格となる幹線道路網の計画的な整備が求められる。また、身近な生活道路は、危険箇所の解消や歩行環境の向上を図る必要がある。

★幹線道路網の拡充と生活道路の整備

国道、県道、市道、いわき四倉中核工業団地アクセス道路など、地域の骨格となる幹線道路網の計画的な整備が求められる。また、身近な生活道路は、危険箇所の解消や歩行環境の向上を図る必要がある。

★公共交通機能の確保と活用

J R常磐線の活用のほか、バスまたはそれに代わる地域公共交通の適切な確保、整備が課題となる。

(5) 暮らしの場としての環境の向上

★安全に安心して暮らせる防災対策の推進

高潮、津波、大雨に対する浸水対策の強化などの防災対策のほか、防犯体制の充実など、安全・安心な暮らしの基盤づくりへの努力を続ける必要がある。

★美しく清潔で人にやさしい生活環境づくり

公共下水道の整備や河川浄化活動の推進、ゴミの不法投棄対策など、地区の衛生環境向上への努力が引き続き求められるほか、増加する高齢者世帯への地域での支援など、コミュニティ機能の維持向上策にも新たな工夫が必要となる。

★情報化の推進

旧大野村を中心とした地区では、情報インフラ整備が進んでおらず、情報通信格差が生じており、解消に向けた取り組みが必要である。

(6) 人のエネルギー結集とその拠点づくり

★協働まちづくり体制の強化

四倉ふれあい市民会議を中心に地区住民の力を結集し、協働によるまちづくり推進体制を強化することが肝要であり、イベントなどを通じた一層の市民連携力の向上も期待される。

★次代のまちづくり人材の育成と地域資源の伝承

四倉の歴史や文化・伝統などを次の世代に伝える教育活動、まちづくりへの参画意欲を高める啓発・人づくり活動などを地道に進める必要がある。

★まちづくりの拠点づくりとその運営

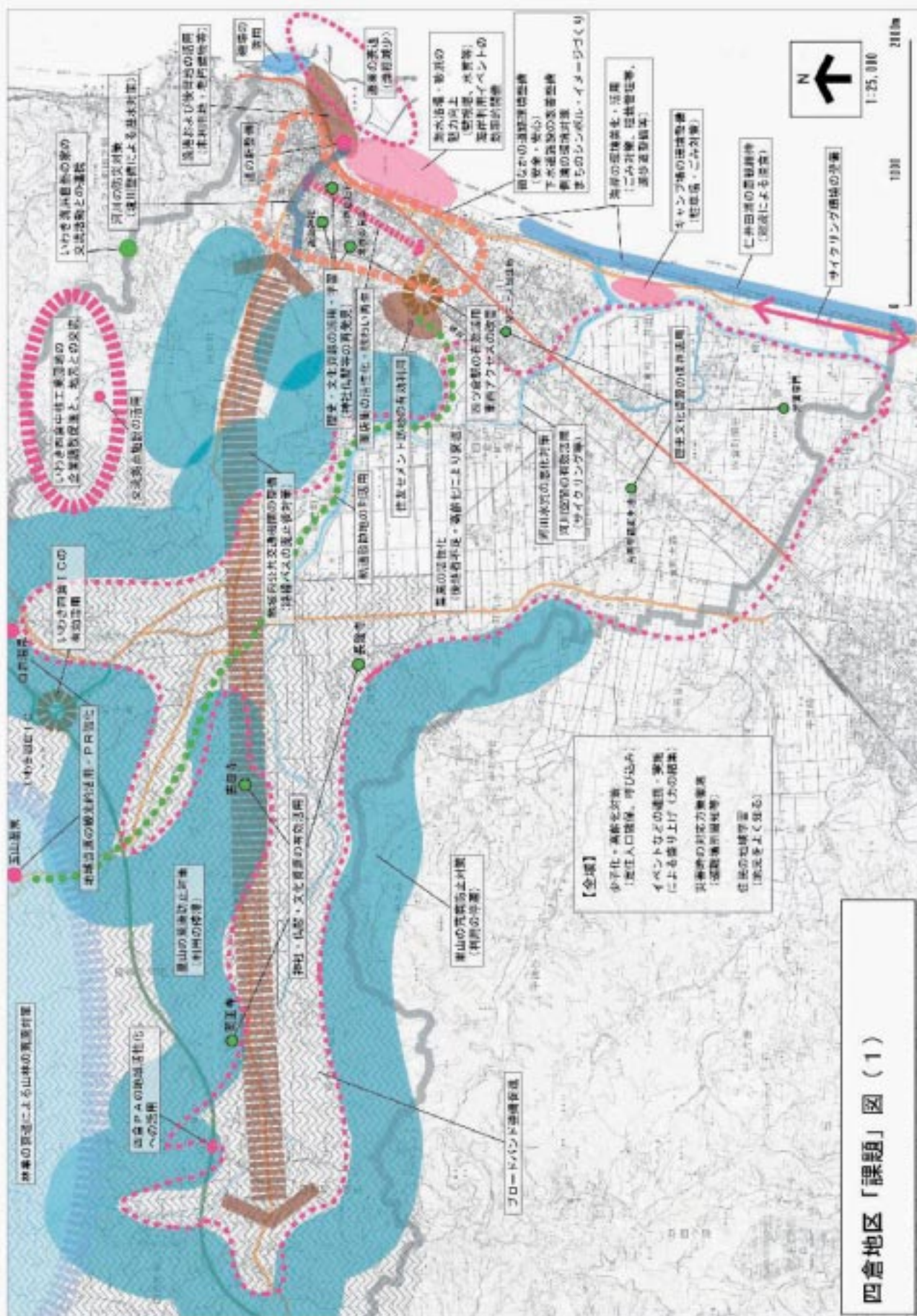
新たなまちづくり拠点となる道の駅「よつくら港」の整備に伴い、運営体制の構築が必要である。



狭あいな道路



旧住友大阪セメント跡地



四倉地区「課題」図（2）

